

持続可能な森林経営研究会

<http://sfmw.net/>

森林施業の問題点等に関するアンケート調査

課題1 森林情報の把握、内容、取り扱いについての問題点と対応
問題点 ：現場の森林情報の収集・分析が不足している
課題 ：森林経営に関する森林情報については現場でとる（毎年森林に行き、観察する）
対応 ： <ul style="list-style-type: none">・森林情報について相談できる専門家（研究者など）を確保する・森林経営に必要な情報を厳選する（立木本数，上層樹高，平均胸高直径など）・必要な情報を簡易森林調査で収集する（少ない道具で調査に手間をかけない）
課題2 目標とされている森林施業のあり方に関する問題点と対応
問題点 ：現場不在で育林技術体系を議論すること（育林技術体系は，料理でいえば，「永遠に改良を続けなければならない未完成のレシピ」。素材（樹種）や調理場（環境）の違いを無視して未完成のレシピ（育林技術体系）に固執しても，自分好みの料理（林分）はできない）
課題 ：育林技術体系の開発・運用を相談できる森林管理技術者，研究者（サポーター）を確保する
対応 ： <ul style="list-style-type: none">・森林経営者は毎年現場を観察する（山の肥やしは草鞋の足跡）・森林動態を調査・分析する（サポーターに依頼しても良い）・森林経営者はサポーターと現場で議論する（意思決定の材料とする）
課題3 森林計画の体系、内容等に関する問題点と対応
問題点 ：市町村（市町村森林整備計画）をサポートする体制が弱い
課題 ：都道府県職員以外に，市町村森林整備計画を相談できる森林管理技術者，研究者（サポーター）を確保する
対応 ： <ul style="list-style-type: none">・地元に林学（森林科学）教育する大学があれば，協力を依頼する（大学は社会貢献も重要な任務の一つであり，相談してみない手はない）
課題4 森林計画の実行、森林施業の実行に関する問題点と対応
問題点 ：森林経営の目標，個別林分の目標林型を設定していないこと
課題 ：森林経営者は森林経営の目標，個別林分の目標林型を明確に設定する
対応 ： <ul style="list-style-type: none">・森林経営目標を明確にするために，経営者は各種情報を自ら収集・分析する・「森林経営に今，何が必要か」を議論できるサポーターを確保する
課題5 その他（自由にご意見を）
「生物多様性保全」や「水土保全」といった機能発揮については，大規模森林所有者でない限り，個別の森林経営者ではなく，市町村や都道府県が（市町村森林整備計画や地域森林計画で）考えるべき問題である（これらは個別林分ではなくランドスケープレベルでなければ機能しないから）。地域のランドデザイン（森林デザイン）については現場で（具

持続可能な森林経営研究会

<http://sfmw.net/>

体的な地域を明確にして) 議論することが大事である。そのためには、森林行政は、計画策定にあたり、サポーター(研究機関、林業事業体、企業、森林 NPO、地域環境への意識が高い地元住民など)と議論していただきたい(産官学民が、互いに陰で相手を批判するような無責任体勢を解消すべきである。相手に敬意を払いつつも、激論できる協働関係を各地で築いていきましょう)。